

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第38週 (9/18-9/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		38週	37週	36週	35週
小児科	18	16	18	18	
眼科	5	4	5	5	
インフルエンザ*	28	25	28	28	
基幹定点	1	1	1	1	

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/18-9/24	9/11-9/17	9/4-9/10	8/28-9/3	9/11-9/17
			38週	37週	36週	35週	37週
小児科	RSウイルス感染症	↓	20 1.11	31 1.94	32 1.78	48 2.67	236 1.79
	咽頭結膜熱		3 0.17	5 0.31	13 0.72	5 0.28	59 0.45
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		16 0.89	33 2.06	27 1.50	19 1.06	302 2.29
	感染性胃腸炎		45 2.50	51 3.19	65 3.61	70 3.89	346 2.62
	水痘		2 0.11	2 0.13	2 0.11	1 0.06	23 0.17
	手足口病	↓★	81 4.50	100 6.25	101 5.61	144 8.00	822 6.23
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	5 0.28	2 0.11	2 0.02
	突発性発しん		2 0.11	8 0.50	10 0.56	17 0.94	58 0.44
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		21 1.17	30 1.88	36 2.00	42 2.33	238 1.80
	流行性耳下腺炎		5 0.28	5 0.31	4 0.22	5 0.28	34 0.26
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		3 0.11	9 0.36	6 0.21	3 0.11	55 0.26
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.50	5 1.00	13 2.60	23 0.68
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	画像診断	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
アメーバ赤痢	男性	40歳代	病原体の検出				

・第38週は、結核1件(166)、アメーバ赤痢1件(5)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(14)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第38週のコメント

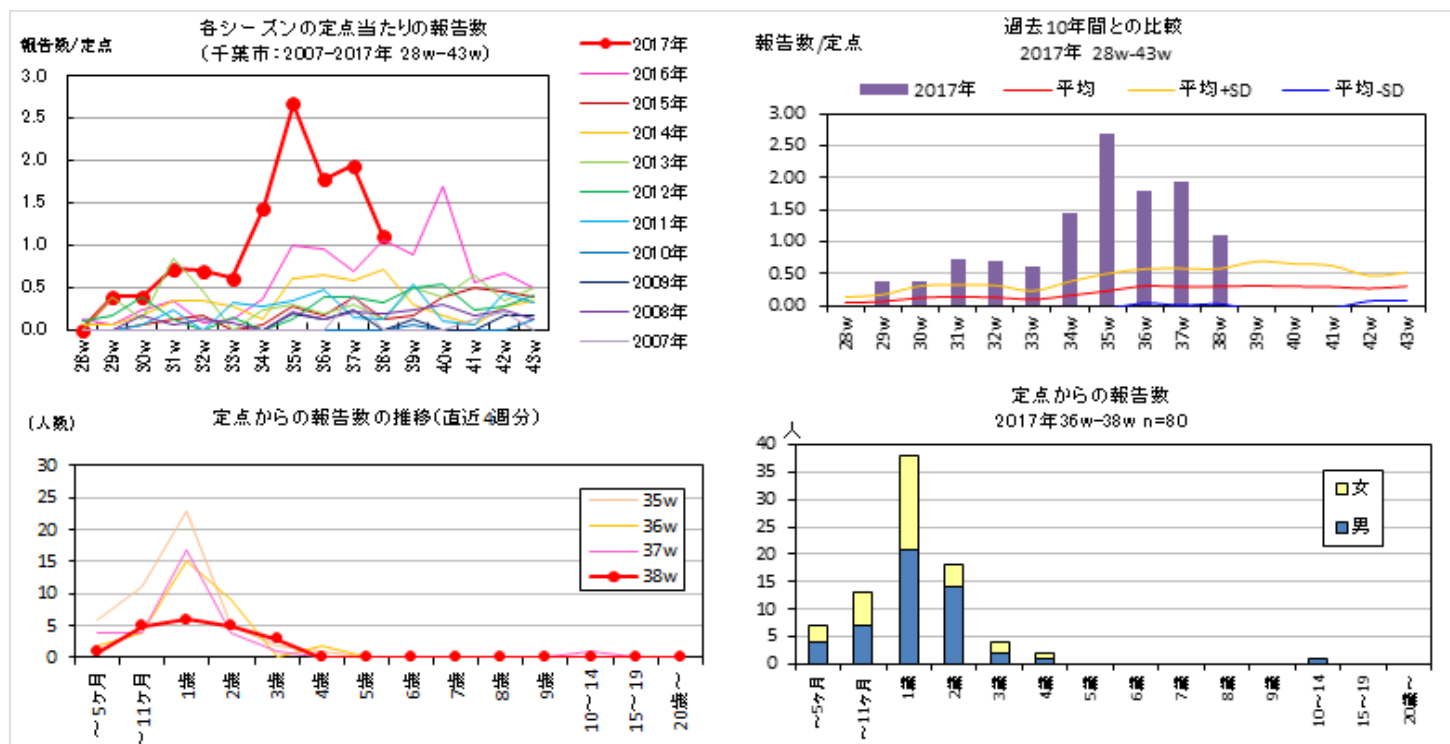
<RSウイルス感染症> 前週より減少し1.11となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

<手足口病> 前週より減少し4.50となり、流行発生警報開始基準値を下回った。流行発生警報終息基準値は上回っており、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<RSウイルス感染症>

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第37週も同様で非常に流行している状況となっています。都道府県別では徳島県、熊本県、島根県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の2017年第38週は前週より減少し1.11となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままで、非常に大きな流行となっています。区別の発生状況は、緑区(3.75/定点)で最多で、同区の6か月から2歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第38週の報告数(n=83)によると、性別では男性が60.2%(50名)、女性が39.8%(33名)で、年齢階級別では1歳(45.8%:38名)、2歳(21.7%:18名)、6~11か月(15.7%:13名)の順に多くなっています。



<手足口病>

全国レベルの第37週は、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、茨城県、福島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第38週は前週より減少し4.50となり、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を下回りました。流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(14.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っており、緑区で流行発生警報開始基準値と並び、中央区及び稲毛区で流行発生警報終息基準値を上回り、美浜区で流行発生警報終息基準値と並びました。2017年第1週から第38週までの累積報告数(n=1755)によると、性別では男性が54.6%(963名)、女性が45.4%(792名)で、年齢階級別では1歳(36.2%:635名)、2歳(20.2%:355名)、6~11か月(11.0%:193名)の順に多くなっています。

